

展勝地風土記

Vol.26

平成31年1月25日

展勝地開園100周年記念事業準備委員会
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業準備委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的なこと、地理的なこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。今回は平成31年4月26日に発行します。

民俗村で昔語りを

加藤 ゆりいか

東銀座で桜のPR

展勝地の桜のPRを、毎年早春の東銀座で行っている。場所は、歌舞伎座(東京都中央区)向かいの「いわて銀河プラザ」。平成20年の「みちのく三大桜名所観光PR」物産展か



いわて銀河プラザで昔話を語る

ら、在京の北上出身者の「ふるさと北上民話研究会(※1)」会員が、ふるさと北上の方言で語る昔話で色を添えている。

今年1月20日からの観光物産展で12年目を迎えたが、ふるさとに思いをはせ、ふるさとを盛り立てたいとの気概は当初から変わらない。

民俗村で「いわて民話まつり」

平成29年6月、「みちのく民俗村」で、「第2回いわて民話まつりin北上」を開催した。岩手県内の6団体と、東京の「ふるさと北上民話研究会」合わせて35人の昔話を、古民家2棟で聞いていただいた。いつも「銀河プラザ」に足を運んでくださるお客さまもわざわざ北上に来てくだ



いわて民話まつりin北上の開会式

さり、多くの地元のお客さまも含め348人が来場してくださった。

「語る喜びと聞く楽しみ」をコンセプトにして、昔話をそれぞれの土地の方言で語ったが、伝承文化としての昔話を再認識する場になったと思う。この「いわて民話まつり」、今年第4回を雫石町で6月22日に開催予定である。

稲瀬の石倉森

ところで展勝地の近くの稲瀬に、石倉森の伝説がある。『北上の伝説と昔ばなし(※2)』には、次のように紹介されている。

―むかし、内門岡の国見山をみちのくの高野山にしようと考えたこの山



ふるさと北上民話研究会の面々

の法師たちが、一生懸命になって、たくさんのお堂を建てましたが、かみんじんの八葉の蓮花になぞるべき四方の山をかぞえて見ると、南の方にどうしても一つ足りません。願い通りに落成式を挙げるには、どうしても今晚のうちに完成しなければならず、困った法師たちは、全員で一夜のうちに一つの山を築こうと石を運んで、現在の石倉森にあたる所までやって来ました。ところが、そのへんに住んでいる

あまのじやくがこれを見て、からかってやれと、「コケッココ」とにわたりの鳴く声をまねしたところ、法師たちは、すでに夜明けが近いと思ひこみ、夜明けまでにはとても国見山まで運ぶことはできないとあきらめて、運んできた石をそこに置いたまま、すぐごと引き上げて行きました。この積み重なった石が山となり、今でも石倉森と言われています。――

もう少しの所で鶏が鳴いて成就できなかったという話は全国的に多いが、国見山廃寺の地と知れば、話がぜん面白みを増す。さらに、民俗村入り口の「爺婆岩」と共に、火山岩(※3)にまつわる物語として読むこともでき、興味は尽きない。

民俗村で昔語りを

かつて家々で語られてきた昔話も、今では家庭伝承は途絶えつつある。昔話は架空の話ではあるが、その中に日本人の物の見方や信仰を見出すこ



いわて民話まつりin北上 旧北川家での昔語り

とができる。その土地の方言で語られてきた昔話は、大事な文化遺産といえる。伝承の灯を消してはならない。現在、私は神奈川県川崎市に住んでいるが、近くに「日本家園」がある。ここでは月に1〜2度火焚きボランテニアが囲炉裏に火を焚き、語りボランテニアが交代で昔話を語り来場者を楽しませている。「みちのく民俗村」でも同様の試みができないものだろうか。また、図書館での「おはなし会」時には民俗村で開催しても、面白いように思う。民俗村が語り継ぐ活動の拠点になればと思

筆者プロフィール

加藤 ゆりいか

1958(昭和33)年北上市生まれ
北上しらゆり大使。北上市史民俗部会専門委員。ふるさと北上民話研究会副会長
編著『ゆりかが聞いた岩手の昔ばなし』『岩手のむがしッコ』『ふるさと北上の昔話』ほか

- ※1 平成12年11月創立。「北上ふるさと会」の下部組織
 - ※2 及川慶郎著(モノグラム社・昭和61年)
 - ※3 『稲瀬火山層のワンダーランド』(北天塾・平成29年参照)
- かやぶきで囲炉裏のある古民家が点在する「みちのく民俗村」ほど、昔話の似合う場所はない。日々の喧騒(けんそう)を忘れて、昔話の世界にどっぷり浸ってみるのも悪くない。